

令和2年度 京都府立嵯峨野高等学校 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◇ 「和敬」・「自彊」・「飛翔」を教育の柱に据え、志を持って人生を主体的に生きる生徒を育て、国際社会のさまざまな分野でリーダーとして貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>◇ 高いレベルでの自己実現を希求し、主体的に学ぶ姿勢と高みに挑むチャレンジ精神を備えた生徒の育成を図る。</p> <p>◇ 豊かな人間性の育成と高い学力の伸長を図る。</p> <p>◇ 生徒・教職員が一体となり、社会の教育力を有効に活用しながら Sagano Dynamicsを推進する学校づくりを進める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Sagano Dynamics: the way in which things or people behave and react to each other</p> </div>	<p>① 授業や特別活動において主体的・対話的な学びを通して、学ぶ意義を明確にしたり、より深く思考する活動が多く教科で行われた。今後は、ICTを活用するとともに基礎基本の理解と習得を徹底し、応用する力を育成する。</p> <p>② 課題探究成果発表会や報告会を全校体制で取り組むことができた。今後は、本校独自のプログラムGLIとアカデミックラボをより体系化し、SSHとの相乗効果を果たす工夫をする。</p> <p>③ 進路についてはより高い志を持ち、高い目標に挑戦する生徒が増加し、学習の成果をだすことができた。今後も、様々な教育活動を通じてより高い志を醸成し、自分の可能性を信じて努力する生徒を育成する。</p> <p>④ とこのは祭やLHR等の特別活動を生徒の主体的な活動の場とすることができた。今後も人権教育や主権者教育の実践を兼ねて、生徒会をはじめ、多くの委員会活動を主体的活動の場として活性化させていく。</p> <p>⑤ 生徒募集に係る取組において本校の魅力を発信することができた。今後も様々な手段で広く府民へ嵯峨野高校の魅力を伝えていく。</p>	<p>（１）ICTを含む様々な学びの方法により、生徒が自ら学ぶ意欲を喚起する授業を実践し、学ぶことの楽しさとともに基礎基本を習得させ、知識の体系化、技能の活用に向け、主体的に学ぶ生徒を育てる。</p> <p>（２）社会との関わりの中で高い志を持って何ごとにもチャレンジし、成果からは達成感を、課題からは新たな行動を生み出すことのできる生徒を育てる。</p> <p>（３）教職員は多面的な指導を行い、自ら高い進路目標を定め、実現に努める生徒を育てる。</p> <p>（４）全校体制でSSHやアカデミックラボを実施し、探究心や独創性を育てるとともに、GLIに基づいて社会性と国際性を豊かにする実践をとおして国際的に活躍できる生徒を育てる。</p> <p>（５）京都はもちろん日本の伝統や文化を理解し、体現し、それらを世界に発信できる生徒を育てる。</p> <p>（６）日々の生活において自己管理ができ、社会の動静に関心を持ち、主体的に判断し行動できる主権者となる生徒を育てる。</p> <p>（７）特別活動は生徒の主体的な活動の場とし、様々な場面でリーダーを育て、コミュニケーション活動を重視しながら活気ある学年及び学校集団を創る。</p> <p>（８）学校の様々な魅力をあらゆる機会や手段を用いて広く伝え、府民から選ばれる学校作りを目指す。</p> <p>（９）本校の教育活動が新しい教育課程の編成に生かされる工夫をする。</p>

評価基準

- A 充分達成できている（目標以上の成果が得られた） B ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果が得られた）
 C 達成できているとはいえない（成果が不十分である） D ほとんど達成できていない（ほとんど成果がない）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
魅力ある学校づくり	ICTを含む様々な学びの方法により、生徒が自ら学びたいと思う授業を実践し、知識を体系化、技能を活用させる。	課題研究や国際交流の場面で、クラウドサービスやビデオ会議システム等のICTの活用を推進するとともに、授業内での実践についても学校全体で共有する。	A	（成果） ・京都府のスマートスクールに指定され、授業でのICT活用が進み、新型コロナウイルス感染症による臨時休校中にも面談指導や学習指導を継続することができた。 ・ICT導入に際して、校内研修をたびたび実施することにより学校全体で実践例を共有し、授業改善を進めることができた。 ・Google classroom の活用が進み、オンラインでの学習支援だけでなく、探究活動や海外に向けての課題研究成果発表等を進めることができた。 ・英語の授業で6つの国・地域の高校と延べ37回のオンライン交流会を実施した。 （課題） ・令和3年度入学生からのBYOD導入にあたり、生徒端末（iPad）の授業での活用についての研鑽を積み、授業の質をさらに高める。 ・日本の伝統や文化を深く理解し、世界に発信する機会を増やす。
		思考力・判断力・表現力の伸張を目的とした、ICTを導入したSDGs に資する教育カリキュラムの研究開発を行う。	B	
	日本の伝統や文化を理解し、世界に発信できる生徒を育てる。	国際交流や探究活動、授業や校外学習等のあらゆる機会を通して、多様な観点から日本の伝統や文化への理解を深め、それらを自信をもって発信する力を育成する。	A	
	ユネスコスクール認定校として、SDGs など持続可能な環境や社会作りの観点から社会貢献できる若者を育成する。	環境や社会の様々な課題に目を向け、持続可能な発展を支えるのに必要な課題設定・解決能力を育成するために探究活動の充実を図ると同時に、国際教育を推進して英語力と国際性の育成を図る。	B	
組織とその運営	社会との関わりを重視しながら、全校体制でスーパーサイエンスハイスクール（SSH）、グローバル・リーダーシップ・イニシアティブ（GLI）を円滑に実施する。	スーパーグローバルハイスクール（SGH）の成果を、現在2期4年目のSSHに融合させ、教科を超えて共有していくとともに、合同の課題探究成果発表会や成果報告会、報告書等を通して広く普及を図る。	A	（成果） ・卒業生の協力を得てSSHの取組や英語の授業を展開することができた。 ・本校生徒と海外生徒が参加するオンラインサイエンスフェスタを開催した。 ・スーパーサイエンスラボ同様、アカデミックラボを組織的に運営することができた。 （課題） ・課題研究の成果と課題を教員間で共有し、さらに組織的な運営に努める。 ・探究活動等において、持続的に卒業生TAやボランティアを活用できるようなシステムを構築する。
		学校全体で課題研究を推進するため、卒業生TAやボランティアの活用を進めるための方策について検討する。	B	
		広い視野に立った進路選択のあり方や自己と社会との結びつきを念頭に置いたキャリア教育の充実に努める。	B	
		課題探究活動や海外研修等の成果を多様化する大学入試への指導等に活かせるよう、教職員間で教科担当者会議等を通じて情報を共有する。	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習と進路指導	生徒は志を持ち、高い進路目標を主体的に定め、自ら努力し、教職員はその実現を図るよう創意工夫を行う。	SSH、SGHを中心としたこれまでの高大連携を踏まえ、より一層効果的な高大連携を図ることにより、生徒のキャリア発達を促進する。	B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時休校中に動画配信やオンラインシステムを活用し、教育活動を継続した。 ・教員のICTの利活用が大きく進展した。 ・日々の学習指導や進路学習、個別面談等を通じて、将来像を明確化し、高い進路目標の設定につなげた。 ・大学入試において、課題研究の成果をいかすことができた。課題研究やSSHの取組が、学部学科の志望理由により影響を与えている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携について、より発展的に検討する必要がある。 ・新しい大学入試システムについての研究を継続し、生徒の進路指導に生かす。
		進路ガイダンスや進路関係の会議等を通して、難関大をはじめとする高い進路目標に向かって努力する生徒集団の育成をはかる。高大接続改革を見据えた授業改善を行い、定期テストや模擬試験を用いて学力分析を行う。面談等において、個々に応じた丁寧な声かけをすることで高い進路目標をもたせる。	A	
		新しい大学入試のシステムについて学校全体で共有し、大学入学共通テストをはじめとする新入試にスムーズに対応する。	B	
		新学習指導要領に基づく教育課程を検討する。	B	
生徒指導と特別活動	生活全般において自己管理ができ、身近な事柄や社会の動静に関心を持ち、主体的に判断し行動できる意識の高い主権者を育てる。	生徒会や各委員会活動や行事を通して主体的に活動させる。生活面において課題のある生徒に対して継続的にサポートしていく。	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で多くの制限がある中、学校行事やHR活動において生徒会が中心となり、生徒が主体的に考え、能動的・積極的に活動した。 ・人権学習を核としながら、日々の生活指導や学習指導を通して、バランスのとれた人権感覚の涵養につなげることができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日的課題であるSNSの正しい活用を促す指導を継続して行う必要がある。 ・コロナ禍でのよりよい教育活動についての検討を継続する。
		人権学習を通じて、現実の人権問題を直視し、基本的人権を大切にすることを育み、問題解決に取り組む姿勢を育成する	B	
	特別活動は生徒の主体的な活動の場とし、リーダーを育て、活気ある集団を創る。	各種行事において、様々な活動に挑戦させることで、企画・運営する力やリーダーシップを育む。	A	
健康安全と環境美化	自ら健康管理ができ、落ち着いた学習環境を作ることのできる生徒を育てる。	心身両面において支援の必要な個々の生徒のニーズに対応し、健やかな学校生活を送らせる。またその過程を通じて、高校卒業後に必要な能力を育成できるようにも支援していく。	A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な生徒に対して、ニーズに合わせた対応をとることができた。 ・新型コロナウイルス感染症予防のため各教室に換気扇を設置した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別および減量に向けての取組をさらに進める必要がある。
		ウイルス感染などから身体を守るため、教室の換気を徹底させる。保健美化委員会の活動をより活発化し、全生徒がゴミの分別、節電等に取り組み、校内美化に関する意識や環境への配慮ができるよう努める。	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
メディアの活用	学校図書館の機能や役割の充実を図り、教育活動や教職員の調査・研究活動を充実させる。	ライブラリーニュースの発刊や各種の企画展示等を通して、図書館の積極的利用を勧め、生徒の自発的・主体的な読書習慣の形成に努める。	A	A	(成果) ・ニュースや展示などの取組に加え、ネットでの蔵書検索システム(Web-OPAC)を導入した。 ・Wi-Fi環境の整備・維持に努め、図書館でのICT機器の利用を促進した。 (課題) ・教職員の教科指導や研究活動に対する図書館のサポートをさらに充実させる。
		図書館と各教科が連携して、図書資料等の整理・充実に努め、探究活動の支援及び言語活動の充実を図る。	A		
		教職員の教科指導や研究活動に関し、資料・情報の収集に努め、図書の供用や情報提供等、教職員へのサポート機能の充実を図る。	B		
家庭・地域社会との連携と広報活動	学校の魅力を様々な機会や手段を用いて発信する。	各分掌・教科の連携のもとSaganoブログのタイムリーな更新を継続する。	B	B	(成果) ・ブログや動画を活用して日々の学校の様子を広く広報した。 ・感染症対策に十分に配慮しつつ、本校の魅力を直に触れて頂く機会を多く設けることができた。 ・学校説明会において生徒の広報委員が企画段階から主体的に関わり、学校の魅力を中学生に伝えることができた。 (課題) ・ホームページの内容をさらに充実させていきたい。
		SSH、GLIの取組における生徒の主体的な活動場面を効果的に伝え、スクールサイトの構築を進める。	B		
		「選ばれる学校」を目指し、各種説明会・中学生進路学習を充実させるほか、各種広報媒体の改善・精選を図る。	A		

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症防止については、どこまでやっても十分というわけにはいかない中、検温・手洗いといった地道な指導を継続してきたことは評価できる。 ・ICTについては日々の努力が実っているように感じられる。 ・SSH事業における小中学校への探究成果波及について、夏休みの課題研究等でも連携ができるとさらによくなるのではないか。 ・生徒に主体性を持たせる嵯峨野高校の指導に期待している。 ・教職員の工夫を重ねた様々な取組が学校の強さとなって生きてきている。
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の新学習指導要領全面実施を見据えた教育活動を展開する。 ・BYOD導入に際し、iPadを活用した効果的な授業を創造し、本年度設置された電子黒板機能付きプロジェクタの活用についての研究を学校全体で推進する。 ・スーパーサイエンスラボ、アカデミックラボ活動のさらなる充実に向け、外部人材の活用についてより組織的に取り組めるシステムを作る。 ・生徒の希望進路実現に向けての研究を充実させ、生徒・保護者への情報提供に努める。 ・生徒、保護者、教職員が安心して学校生活を送れるように感染症対策を継続する。 ・人権尊重の意識を高め、生徒の主体性を伸ばす生徒指導を全教職員で推進する。
---------------	--